

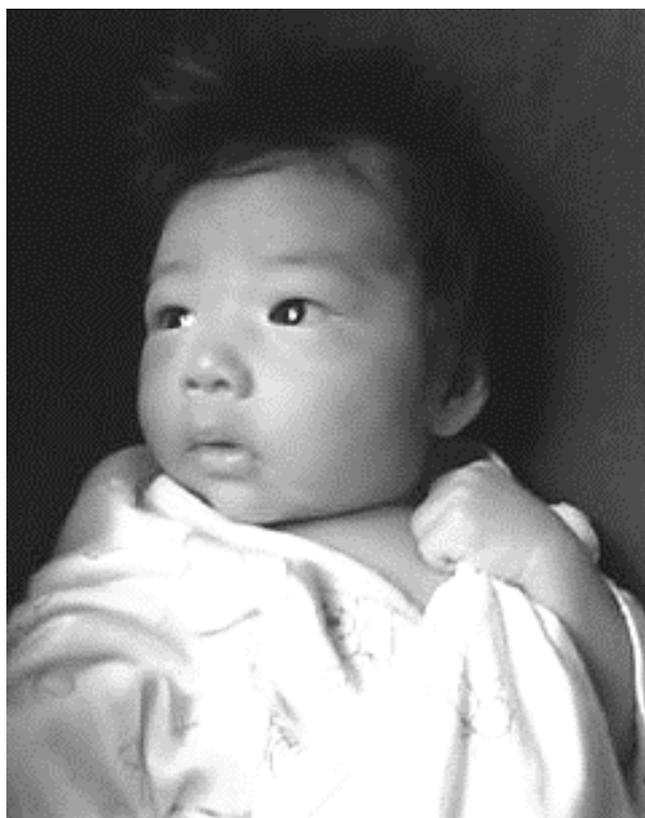
1971年 8月 7日 第三種郵便物認可(毎月6回 1の日・6の日発行)
2007年 8月29日発行 SSKA 増刊通巻5985号

SSKA

ああるぴい

第44号
2007 autumn

K a n a g a w a



西嶋諒人(あきと)ちゃん

私たち自身で
治療法の確立と
生活の質の向上を目指す



J R P S 神奈川支部

・巻頭言

- 2 5音階音楽を聴いて思ったこと

・神奈川支部の活動

- 3 総合カレンダー
4 第12回神奈川支部定期総会のご報告
4 新役員のご挨拶
5 医療講演会の報告
10 代議員会報告
11 得々講座『点字の体験』・報告
12 藤沢保健所での交流会・報告
13 得々講座『秋の盲導犬体験講座』+αのお知らせ
16 得々講座 11月11日は『RPの遺伝講演&相談会』
17 一緒に歌ってみませんか♪カラオケ交流会のお知らせ
18 つくしの会だより

・情報コーナー

- 19 <施設紹介>
——七沢ライトホーム
22 <ロービジョンのある病院>
——神奈川リハビリテーション病院眼科
25 世界網膜の日 in 静岡
27 平成18年度神奈川県地域別網膜色素変性症患者数
29 東京支部主催 医療講演会のご案内

・投稿コーナー

- 31 地球一周「トパーズ号」の見学
33 内なるヴァイオリンの音色
34 ウッチャンの落書きストーリー



◆今号の表紙

西嶋亜希子(旧姓・竹川)さんの長男・諒人(あきと)ちゃんです。7月4日に生まれました。西嶋さんには支部設立総会以来、ボランティアとしてずっとお手伝いいただいています。

私は15年くらい前に「網膜色素変性症」と診断されたが、その頃はまだ視野が欠けていると言う自覚はなく視力もそれほど落ちていなかった。ところが次第に視野の中がリング状に霞んできて、それが中心部に進行してくるにつれて困った事が起きてきた。その頃はまだサラリーマンをしていたので、会社で上司や仕事仲間とすれ違っても気がつかず挨拶をしないで素通りしてしまい後で顔が真っ赤になるほど恥ずかしい思いをしたり、細かい文字で書かれたビジネス文書が読みにくく文書の内容を勘違いしたりと、視野が欠けてしまった事で「自分は人間失格か…」とも思うほど落ち込んでしまった時もあった。

そんなある日、ラジオから不思議に魅力的な響きの音楽が聞こえてきた。なぜか心に染み入るような懐かしさを感じる響きだ。後で調べてみると、それは「5音階音楽」と言う一種の民族音楽だった。5音階音楽とはドレミファソラシの7つの音(それと5つの半音)で組み立てられた一般の7音階音楽とは一寸違い、その7つの音のうちのどれか2つが欠けている音楽のこと。私が聞いたのはレとラが欠けたドミファソシの5つの音で組み立てられた音楽だったと思う。しかしレとラが欠けているということが全く違和感を感じさせず、むしろその欠けた音を含んでいることで一般の7音階音楽とは一味も二味も違った魅力的な音楽になっていることに気がついた。「あっ、俺もこれと同じでいいんだな」と思った。

視野が欠けていることも自分を構成する部品の1つだと考えればいい訳だ。後はこの欠けている部分も含めて、自分の持っている全ての部品をどう組み立てて行くかだ。それで自分らしい味が出せると思った。それから気が楽になり自然体で生きる事ができるようになったと思う。

(役員・武川 宏)

神奈川支部の活動

総合カレンダー

- 9月 1日(土) ※カラオケ交流会 12時～午後4時
ビッグエコー横浜関内店
- 9月1・2日(土・日) 第4回JRPS関東地区リーダー研修会
横浜あゆみ荘
- 9月 9日(日) パソコン教室
サポートセンター708号 午後1時～4時
- 9月22日(土) 陶芸クラブ 横浜ラポール 午後1時～
- 9月23日(日) 世界網膜の日(静岡県)
- 10月14日(日) ※得々講座『秋の盲導犬体験講座』+ α
午後1時～4時
日本盲導犬協会神奈川訓練センター
- 10月27日(土) 陶芸クラブ 横浜ラポール 午後1時～
- 11月 4日(日) ※東京支部医療講演会
四谷区民ホール 午前10時～午後2時30分
- 11月11日(日) ※得々講座『RPの遺伝講演&相談会』
午後1時～4時
サポートセンター 403会議室
- 11月24日(土) 陶芸クラブ 横浜ラポール 午後1時～
- 12月 1日(土) ※カラオケ交流会 12時～午後4時
- 12月 9日(日) ミニ集会 サポートセンター709号 午後1時～4時

※…この印の項目は記事が掲載されています。

◆ミニ集会の会場

ミニ集会は通常、サポートセンター(かながわ県民活動サポートセンター
電話:045-312-1121)で開催します。横浜駅西口から徒歩10分です。

第12回神奈川支部定期総会のご報告

支部長・佐々木裕二

第12回神奈川支部定期総会は予定通り去る6月3日に行われました。約40名の会員の皆様により審議され、全ての議案が承認されましたことをご報告いたします。

役員一同皆様のお役に立つ情報発信とイベント企画に頑張っております。イベント予定などは会報誌およびホームページでお知らせしますので、多くの皆様に参加していただきたいと思っております。

新役員のご挨拶

本年度新たに3名の方が役員として支部運営に参加して下さることとなりました。また、岩井敏子さん、小澤忠男さん、齋藤佳美さん、浜田啓子さんの4名が退任されました。どうもありがとうございました。

武川 宏(相模原市)

この度、役員に新任いたしました相模原市在住の武川宏です。JRPSの会員になってまだ2年余りで右も左も分かりませんが、自分にできることがあれば何かお手伝いをしたいと思ってお引き受けしました。時間の都合がつかずミニ集会にあまり参加できないのが残念ですが、会報発送やイベント等でお手伝いしたいと思っています。

中山雄一(横浜市)

この度、阿部さんと一緒に会計を担当することになりました、横浜市在住の中山雄一です。まだ、支部運営の内容がわからない事ばかりですが、早くお役に立てる様に微力ですが全力で取り組んでいきたいと思っております。よろしく願いいたします。

※もう一人の新役員・山本健次さんの挨拶は次号掲載します。

医療講演会の報告

佐々木裕二

総会に引き続き医療講演会が行われ、昨年同様会場は約80名の入場者でほぼ満員となりました。

講演は埼玉医大の森圭介先生により「網膜色素変性研究の現状と諸問題」と題して行われ、その後高野雅彦先生を座長として質疑応答が行われました。以下その要旨をお伝えいたします。



講演をされる森圭介先生と参加者の皆さん

5

● 神奈川支部の活動

「網膜色素変性研究の現状と諸問題」

- ・ 過去の眼科医療は感染症に対する内科的治療がほとんどでした。現在は外科的治療が主体で、将来は遺伝子医療(ゲノム創薬、再生医療、遺伝子治療)、人工臓器が発展してゆくことが期待されています。現実に加齢性黄班変性に対してゲノム創薬による薬が使えるようになり、現在の外科的治療から遺伝子医療による内科的治療に確実に移行しつつあると言えます。
- ・ 眼科領域における遺伝子治療は2005年暮れから今年にかけて相次いで行われました。一つは網膜細胞腫(目の腫瘍)に対する遺伝

子治療が2005年11月に論文で報告されました。実際に始まったのは1999年だと思います。我々のグループは加齢性黄班変性に対する報告を2006年2月に行いました。また、レーベル先天盲という網膜の変性疾患で異常遺伝子がRP65という網膜色素変性と同じ場所の遺伝子治療が、今年5月2日にイギリスで行われました。特にJRPSの皆さんにとっては、最後のレーベル先天盲に対する遺伝子治療が進んだということはかなり大きなニュースだと思います。

- ・網膜色素変性の研究は昭和の時代から行われていましたが、現実的に病態がとらえられたのは1990年にロドプシン遺伝子の異常が発見されてからです。ですから近代眼科医療の歴史が100年としても、網膜色素変性の研究が本当の意味で始まったのは17年前であるということになります。その17年の間に130以上の原因遺伝子が発見されています。これはかなりのスピードで進んでいると言えますが、治す方から考えると原因遺伝子が多いと言うことはマイナスの要素です。というのは、それぞれの遺伝子に対して導入ベクターや遺伝子、あるいはブロックする遺伝子がそれだけの数必要となるわけで、手数料がかかると言うことです。ということから網膜色素変性は単一疾患でなく様々な遺伝子による複合疾患であり原因遺伝子を修復する遺伝子治療は、現状では大変申し上げにくいんですが、困難であると言えます。
- ・他にどういった治療法があるかと言いますと、人工眼、カメラの映像を脳に送る方法で、これも既に何例か人に応用されています。また、再生医療は変性した視細胞・色素上皮細胞を再生させる方法で新しい細胞を移植するという方法です。また、遺伝子治療は原因遺伝子を修復する究極の治療法ですが現時点では難しいとしか言えませんが、神経保護による進行抑制は現在の技術でも可能となってきています。

- ・ 遺伝子治療のスタートは異常遺伝子を修復して治すということですが、色素変性は非常に沢山の原因遺伝子があるということで物理的に大変膨大な作業であり多くのお金と人手と時間がかかると考えられます。この辺が大変大きな問題です。
- ・ もう一つは、薬となるような物、治療効果のあるタンパクを発現する遺伝子をその細胞に導入することによって組織そのものが治療薬を生産する工場のような物にする方法があります。網膜色素変性の場合には神経が変性して死んでしまうのが原因ですから、その死んでいくのをストップさせる作用のあるタンパクを導入することになります。要するに薬を目の中に一生注入し続けることはできませんので、目玉の中でその薬を作らせてしまおうという考えです。それは、我々が行っているアデノウイルスベクターによるPDFというものを発現させる方法ですし、九州大学でも行われています。
- ・ 遺伝子というのは遺伝情報の単位で細胞の核の中にあるDNAというものに入っている情報のことです。これがメッセンジャーRNAに写し取られて核の外に出てリボゾームと言うところでタンパクが作られます。ここの部分で神経保護作用のある遺伝子を組み込んでしまえば、メッセンジャーRNAがそれを転写してリボゾームで神経保護作用のあるタンパクを作ることができます。そうすると細胞自身が治療薬を作ることができるということになります。
- ・ どうやって遺伝子を核の中に導入するかというと、ウイルスを使います。ウイルスは簡単に人の核の中に入って遺伝子を置いてくると言うことをします。我々はアデノウイルスから遺伝子を取り出して、病気を起こすような遺伝子とウイルス自身が増殖するのに必要な遺伝子を取り除きます。そこに治療となるような遺伝子を組み込みます。このウイルスベクターは体の中で増殖することができませんから、一旦細胞の核の中に必要な遺伝子を運んでいってくれた後は、死んでいってくれます。ということで病気を引き起こすことなく必要な遺伝子

を網膜の中に移しこんでくれる。言わば、悪者をうまく飼い慣らして、良い遺伝子を運んでくれる者に変えていってしまうというのがウイルスベクターを治療に応用する時の考え方です。

- 全く新しい治療法が認められるまでには相当の動物実験を経た後に三層の臨床試験が行われます。アメリカの黄斑変性の第一層試験はアデノウイルスベクターの毒性の試験でしたが、一過性の虹彩炎と眼圧上昇が認められた他は重篤な症状はなく、かえって出血や浮腫が縮小したり、特に視力は末期であるにもかかわらず48%の症例で改善されて現在第二層の段階に入っています。この第一層の結果で視力の改善が見られたと言うことは予想以上の強い神経保護作用があるのではないかとすることで、網膜色素変性の患者さんでも効果があるのではないかと九州大学の先生のグループが一生涯懸命やっています。
- 今、日本は医学研究に関して風向きが悪くなっています。そのことを我々医者が世の中に向けて発信してゆかなければならない、世論を変えてゆかなければならない様な動きが出てきております。私が留学していたところでウイルスベクターのディレクターをしていた友人がいます。彼も私も高野先生も准教授で年齢的にも似ていますが、決定的に違うところがあります。私自身JRPSから助成金をいただいたこともあって何とかやっているんですけども、平均的に私が年間使えるお金は120万円です。それに対しまして、彼は研究を立ち上げたばかりということもありまして年間1億円です。圧倒的な差がある。それから私が研究に割ける時間は一週間の内半日ですが、彼の場合は2日半から3日です。彼の場合は手術をしながら研究をしています、研究だけをしている人は一週間丸々使えます。研究室には研究助手というのが居るんですが私の所には居ません。彼の所は5～8人です。日本の研究者はこういった少ない時間を何と

か活用して自分の手もしくは共同研究の医局の若い先生達と実験をして居るんです。そうして何とか細々とでもアメリカに、世界に負けてなるものかと色々やろうとしているんですが、ここ2~3年の医療環境の悪化でそのわずかな時間も奪われようとしているのが現状です。もちろん日本でもメジャーリーグ級の研究室もありますが、多くの研究者が難しい状態に直面してきているのは間違いないと思います。

- ・ GDPに対する医療費の割合はアメリカが1位、日本は18位です。G7では最下位です。一方G7の中で日本以外の6ヶ国の土木建築費の合計は28兆円、それに対し日本は一国で50兆円です。予算の割り振りがだいぶ違う。何でこんなお金の話をするかという医療費が少なく抑えられると、何十人もの患者さんを抱えている病棟を担当する医者が少なかったり看護師さんが少なくなったりせざるを得ないわけです。また、資本投資自体も抑えなければなりません。そういった環境自体が医療費削減ということで悪くなってきてしまっている。そういう状況で研究をしようと思っても結局手数がどんどん減ってしまってやりにくい状況になってしまっています。
- ・ それだけでなく研究に携わるような大学病院は、新研修医制度により研究室に入ってくる研修医が激減している。それに加え、リスクの高い高度医療に携わる大学病院から沢山の勤務医が離れてしまっている。当然残っている医者は目の前の患者さんを救わなければなりませんから手もお金もそちらにかけなければならなくなっている現実があります。憂鬱な話ばかりで申し訳ありませんが、是非これは



伝えなければならぬと思いました。リスクの高い先進医療を担う病院ほど弱体化し日本の先進医療や研究は荒廃しつつあります。長い時間ありがとうございました。

代議員会報告

佐々木裕二

6月9・10日に大阪で代議員会・全国大会が開催されました。詳しい報告は本部会報に掲載されると思いますが、感想を含めてご報告いたします。

代議員会には神奈川支部から、佐々木、阿部、森口の3名が参加いたしました。代議員の人数は会費納入済みの会員数で決まりますので、皆さん会費の納入は忘れないようにしてください。

今年の議案では大きな活動方針の転換が提案されていました。それは「治療法確立への重点化」です。どちらかと言えばQOLに傾いていた活動内容を私たちの悲願である治療法確立に向けて軸足を移そうというものです。

具体的には、毎年行っている研究助成2件に特別研究助成1件を加え3件の助成を行う。2008年度の「網脈絡膜変性フォーラム」を日本臨床視覚電気生理学会に併設する。先端医療支援戦略委員会を結成し治療法研究支援と国・世論への働きかけの施策を方向づけする。また、研究基金の減少対策として、研究基金の分離・NPO法人化、基金増額キャンペーンの実施、全国大会の当面休止、などが活発な審議の上可決されました。

特に基金増額キャンペーンに関しては、本部や支部単位での資金集めだけでなく会員の皆様にも会員募金をお願いすることとなりました。趣旨は本部会報に掲載され振込用紙も添付されます。趣旨をご理解の上、皆様のご協力を心よりお願いいたします。



得々講座『点字の体験』・報告

企画担当・岸 利勝

得々講座『点字の体験』は開催決定が遅れた為、広報出来ずすいません。広報されなかった今回の点字講習会は時間的に多少短かったが、母の日の5月13日(日)県民サポートセンター内に於いて、ミニ集会の後半、ミニ集会参加者17名がそのまま参加して開催した。

今回の点字講習会は、エレベーターなど暗い場所で見えない時、手で触って読み取ることが出来るように、「1階～10階」「上、下」や「閉る、開く」等最小限の点字を習得する、基本と初歩の勉強を目的として開催された。

講師は点字を良くご存知で自ら使い、横浜市内の小中高校等で福祉教育の一環として、「白杖」や「点字」等に関する授業で講師を務めている、神奈川支部会員の小泉暁美さんをお願いし、約2時間の予定で講習会が行われた。参加者の中には「点字」を習得している人もいたが、殆どの方は「点字」という言葉は耳にしても、身近で触れるのは初めてと言う人達であった。

小泉さんのユーモア溢れる軽快な説明で始まった講習会では、①点字とは6個の凸った点、②6点で一文字を表した文字で、すべてカタカナ表示が基本、③墨字と同じように五十音、数字、ローマ字があり、④数字は数符記号を付けて表す等の説明を受けた後、準備された点字五十音や数字、ローマ字を指先で触り、実際の点字を触感体験した。「うあ～小さい」「区別がつかない」「アツわかったあ～、『あ』だよ」「これは数字の数符だから『1』だ」等々、賑やかな声があちこちから上がっていた。

そして点字器と鉄筆を使って、点字の凸面を用紙に打ちだし、要領を得てから点字器の小さな四角に6ヶの点を打つ練習をした。再び賑やかに、「うあ～難しい」「うまく6ヶ並ばない」「点が重なったあ～」等の声が上がった。その後小泉さんの指導で、実際の点字を打つことになったが、読むときと打つときは点の位置が正反対で、これまた大変賑や

かになってきた。そして数字の数符記号と数字やカタカナの五十音を打ったりし、最後に身近なエレベーター内の点字や駅での点字等の説明を受け、実際の「閉る、開く」「上、下」等の点字を指先で確認しながら読んで、点字ってこういう物なのかと、改めて知った点字講習会であった。

藤沢保健所での交流会・報告

岸 利勝

7月23日(金)、藤沢市主催で藤沢保健所にて網膜色素変性症の講演会・相談会・交流会が開催され、神奈川支部は交流会に小泉と岸が参加した。

当日は快晴で真夏の太陽がようしゃなく照りつけ、藤沢駅から保健所まで約15分歩いただけで、玉のような汗が流れ落ちる暑さであった。参加者は講演会に40名と多かったが、ほとんど中年以上で若い人は見あたらなかった。医療相談は5名、交流会は12名と少々少なめであった。

講演会は七沢神奈川リハセンター仲泊先生の講演で、網膜色素変性症の発症から進行症状、治療法の状況、遺伝や合併症(白内障や緑内障等)、福祉関係、ロービジョンケアまで幅広く、全般的に解かりやすく噛み砕いての説明をして頂き、初めて聞く人は自分の病気である網膜色素変性症の概略を、おおむね理解出来たものと思われる。又私も改めて良い勉強の時間を過ごすことが出来た。

講演会后、交流会参加の挨拶とJRPS本部及び神奈川支部の簡単な紹介を行った。その後光学堂(中山さん)が展示したロービジョングッズのルーペや遮光眼鏡等を熱心に見学する参加者の姿が見られた。中にはルーペのことすら知らない人もいたが、参加者には大変喜ばれ大好評であった。

その後休憩を挟んで交流会が開催された。交流会参加者は12名と

少なく全体の25%ほどであった。当然のことだが網膜色素変性症に関心を持っている人が参加した感じで、その内5人が神奈川支部に参加したり、参加した経験を持っており、自分の眼の状態や将来のこと、職場で網膜色素変性症を隠しながら働く立場、娘や孫に遺伝し網膜色素変性症が発症しないか心配、高校生の孫が発症し何かしら手助け出来ないか、最近発症が解かりどうしたら良いのかまったく解からない等々、日常生活から将来のことや眼の症状、仲間のこと等の話が中心であった。交流会でも「遺伝」に関する話が出たが、仲泊先生の「がん」や「糖尿病」も遺伝で命に関わるが、網膜色素変性症は命に関わらない。誰でも悪しき「遺伝子」を持っている等の説明と、参加者や我々の話等で正しい知識を得たようだった。色々な情報を得て、交流会終了時後は笑顔になって帰られた人が多かった。

神奈川支部を知らない参加者も、それぞれの悩み苦しみを活発に意見交換し、大いに交流が深まり各々心に重くのしかかった物が少し取れ、軽くなると自然に笑い声が出るようになってきたが、予定された時間では意見交換が十分出来ない状況であった。最後に、日常生活や網膜色素変性症の情報交換等も出来るので、出来たら一度ミニ集会へ遊びに来て下さいと誘いの声を掛け交流会を閉会した。

得々講座 『秋の盲導犬体験講座』 + αのお知らせ

この度、日本盲導犬協会神奈川訓練センターのご協力を得て、得々講座『秋の盲導犬体験講座』を開催できることになりました。講習会と盲導犬と歩く体験歩行の二部構成です。講習会では、盲導犬について基本的なことを学びます。盲導犬と歩く体験歩行は、訓練センター周辺で行います。訓練センターの周囲は、適度にアップダウンがあつて盲導犬との歩行訓練にぴったりです。訓練センター1周は10分コースですが、希望者数名には片道30分コース(往復1時間)の体験歩行も可能ですので、事前にお申し出ください。

※備考：講習会を3Fにて行い、その後、1Fにて順番に指導員の指導のもとに盲導犬体験歩行を行います。雨天決行です（大雨の場合のみ盲導犬体験歩行を講習会とともに室内にて行います。カッパはご用意してあります）。

■『秋の盲導犬体験講座』

- ・日時：10月14日（日） 13時～16時（ α ご参加の方は12時～）
- ・場所：日本盲導犬協会神奈川訓練センター
- ・参加人数：先着20名
- ・参加費用：無料
- ・申し込み先：岩佐浩司

--****（18時以降にお願いします）

E-mail：****@*****

（メール環境のある方はメールにてお申し込みくださると助かります）

※申し込みの際、 α の参加有無、集合場所に参加する場合の時間帯をお知らせください。また、体験歩行の希望時間（長距離）などありましたらその旨添えてお申し込みください。

- ・集合場所：市営地下鉄「仲町台」駅改札口
（直行で行かれる方はアクセスをご参照ください。）
- ・集合時間：12時30分出発（ α 参加の方は11時40分出発）

※タクシーを利用しますが、約1000円かかります。何人かで相乗りすれば自己負担が少なくなります。なるべく皆さんとご一緒に出発したいと思いますので、ご協力をお願いいたします（定刻になりましたら出発します）。

■手打ち蕎麦（ α ）

訓練センターの近くに評判の高い「風の陣」という手打ち蕎麦店があ

るとお聞きし、企画することにしました。林の中にひっそりと建てられており、そばには大きい道路も交通もありませんがはるか遠方から訪れるお客も多いという、とてもおいしいと評判のお店です。

参考：・「ざるそば」800円

・営業時間：11時～15時、17時～20時半

・所在地：横浜市港北区新吉田町 5736

訓練センターから徒歩約7分、帰りの乗車を予定している「神隠(かみかくし)」というバス停からも徒歩7分の場所です。

日本盲導犬協会神奈川訓練センター

〒223-0056

神奈川県横浜市港北区新吉田町 6001-9

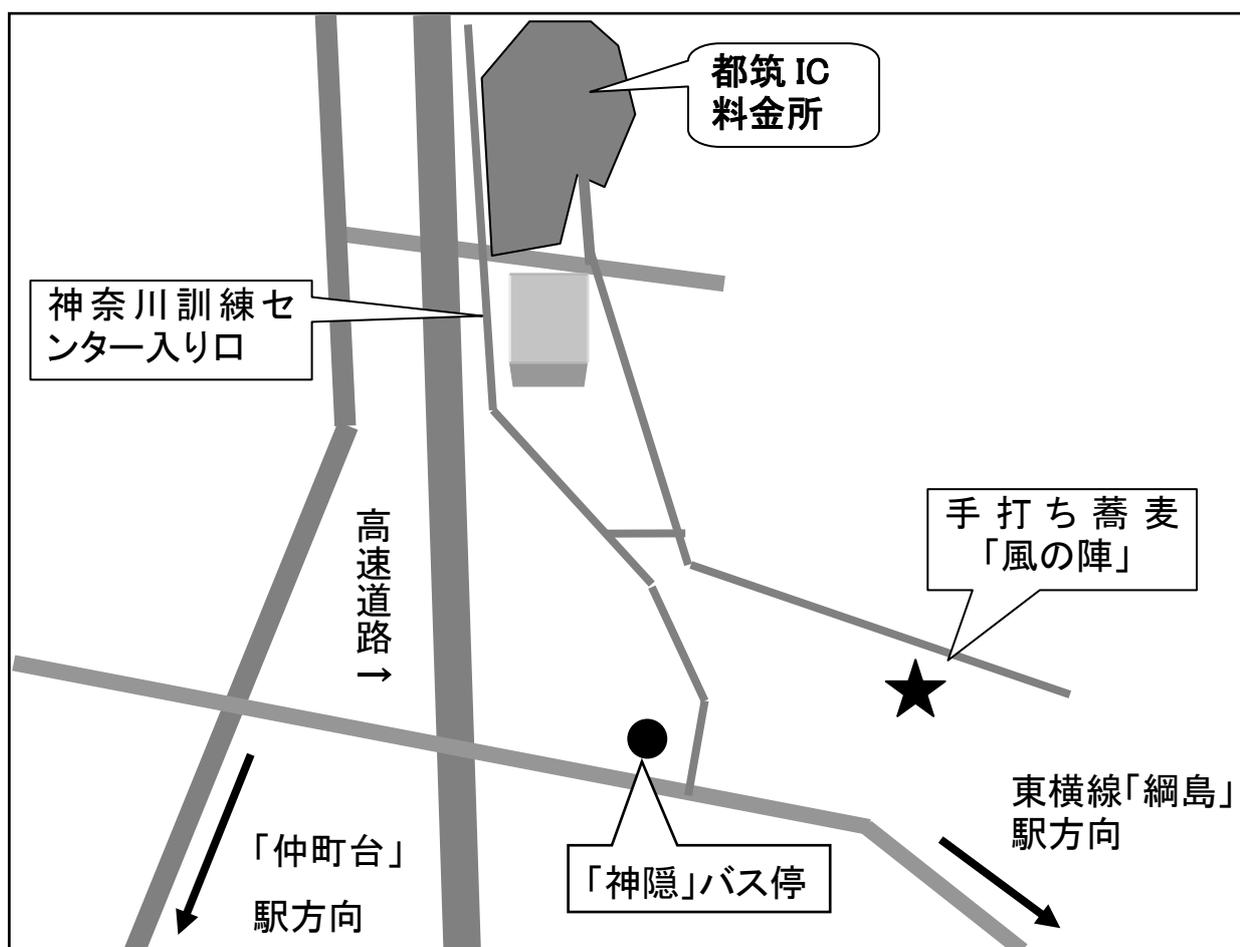
TEL： 045-590-1595

15

参考：アクセス

- ・東急東横線「綱島」駅から東急バス路線「勝田折返所」行きに乗車し、「神隠(かみかくし)」バス停下車(約 20 分)神隠バス停から訓練センターまで徒歩約 7 分。
- ・横浜市営地下鉄「新羽(にっぱ)」駅から徒歩約5分のバス停「常真寺前」にて、「勝田折返所」行きに乗車し、「神隠」バス停下車(所要時間約 5 分)。
- ・横浜市営地下鉄「仲町台」駅下車
徒歩約 30 分。タクシー10 分少々。

◇日本盲導犬協会神奈川訓練センター周辺地図◇



得々講座 11月11日は『RPの遺伝講演&相談会』

11月の得々講座は、網膜色素変性症の遺伝について日頃皆さんが疑問に思っていることや子供や孫への遺伝の不安などに対して、専門の先生をお迎えして答えていただく企画です。

最初に網膜色素変性症の遺伝の仕組みについて30分くらい先生にご講演いただき、その後はたつぷりと時間を取って参加者の皆さんからの質問に対して説明していただく予定です。

尚、この講座はかながわ難病相談・支援センターとの共催で開催されます。

●得々講座 『RPの遺伝講演&相談会』

日時：平成19年11月11日(日)13時～16時

場所： かながわ県民センター403会議室
※いつもミニ集会をやっている建物です。

定員： 60名

講師： 林 孝彰先生(東京慈恵会医科大学眼科学講座講師)

講師略歴

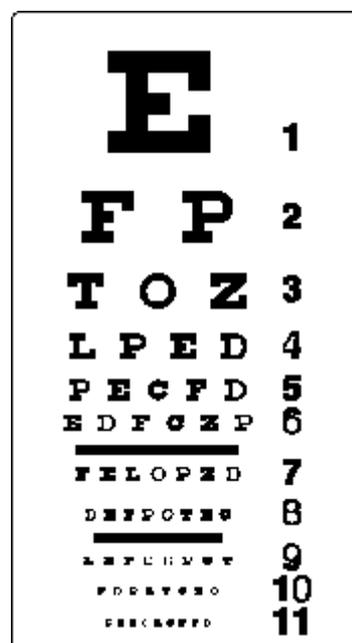
- 1991年 東京慈恵会医科大学卒業
- 1998年 東京慈恵会医科大学大学院修了(眼科学)
- 1998年 米国州立ワシントン大学留学
- 2001年 東京慈恵会医科大学大学眼科学講座助手
- 2003年 東京慈恵会医科大学大学眼科学講座講師
- 2007年 現在に至る

日本眼科学会認定専門医、日本人類遺伝学会認定臨床遺伝専門医

専門は、遺伝性網膜疾患の視機能評価と遺伝子診断、先天色覚異常の遺伝子診断とカウンセリング、臨床遺伝学、黄斑変性の診断と治療

17

● 神奈川支部の活動



一緒に歌ってみませんか
♪カラオケ交流会のお知らせ

恒例のカラオケ交流会です。日頃のストレス解消、リフレッシュのために、時には大きな声で歌ってみませんか？ 皆さんの参加をお待ちしています。

日時：9月1日(土)12時～16時

12月1日(土)12時～16時

場所：ビッグエコー横浜関内店（JR 関内駅北口より徒歩1分）

電話：045-640-6780

会費：2500円位

集合場所：JR 関内駅北口の改札付近（横浜寄りの階段を利用）

集合時間：12時

申し込み連絡先：渡辺千登世 電話 ***-***-****

つくしの会だより

残暑厳しきこの頃、皆様お元気でお過ごしですか。夏バテなどしていませんか？

去る6月9日(土)、横須賀しょうぶ園に行ってきました。心配していたお天気もまずまずで、園内にはあじさいや花しょうぶなどが咲き乱れ、皆さん思い思いに楽しんでおられました。

今回は、10月24日(水) みなとみらいホールで開催される「オルガン 1ドルコンサート」を鑑賞する計画を立てました。お昼のひととき、パイプオルガンの荘厳な調べを味わってみませんか？ コンサート終了後、皆さんでおしゃべりしながら、お食事を楽しみたいと思います。ご参加、お待ちしております。

日時：10月24日(水) 午前11時

集合場所：JR桜木町駅(改札を出た所)

費用：100円(入場料)、別途食事代

申込締切：10月20日(土)

申込先：浜田啓子 電話 ***-***-****



＜施設紹介＞

このコーナーでは視覚障害者のための県内にある様々な施設を紹介しています。不自由さを改善するために役立ててください。

■七沢ライトホーム

「見えにくい、見えないことで困っている」という方々に、七沢ライトホームではこんなことをしています。

- ・ 仕事が続けられない → 事務作業のためのパソコン訓練
- ・ 仕事がしたい → あんま・鍼・灸の資格が取れる学校へ進学
- ・ 学校に行きたい → 学習手段の獲得(点字・パソコンなど)
- ・ 教科書が見えない → ロービジョンエイドの紹介・訓練
- ・ 自分一人では料理が作れない → 調理訓練
- ・ 一人では歩けない → 歩行訓練
- ・ 点字を習いたい → 点字の学習
- ・ パソコンを使ってみたい → 音声パソコンの訓練
- ・ パソコンの画面が見えない → 拡大画面・音声ワープロ

1. 生活訓練とは

眼からの情報はとても大事なものです。これがなければ、安全に行動することができず、何をするにも時間がかかります。しかし、見えなくても、見えにくくても、毎日通勤し、仕事をしている人がいます。一人で電車に乗り、料理・洗濯をして、子どもを育てている人もいます。

七沢ライトホームでは、見えにくい方、見えない方に日常生活ができるように、様々な訓練を提供しています。

2. 訓練内容

- ・ 基礎訓練(感覚訓練)… 現在ある視覚を有効に利用したり、触覚や聴覚を使って安全で効率的な行動をするための訓練
- ・ 学んだり、仕事をするための訓練 … コミュニケーション訓練
- ・ 移動のための訓練 … 歩行訓練
- ・ 家庭で生活するための訓練 … 日常生活訓練
- ・ 楽しく生活するための訓練 … レクリエーション訓練
STT(サウンドテーブルテニス)、フライングディスクなど

3. 施設の概要

七沢ライトホームは、身体障害者福祉法に基づいて設置された視覚障害者更生施設です。1973年開所以来、多くの視覚障害者の方々に対して、利用者個々のニーズに応じた総合的な生活訓練プログラムを提供し、家庭や社会での生活の広がりをお手伝いしています。

【定員】 入所20人、通所5人です(入所の時期は、年間を通し定員の空き状況に応じて随時に入所・通所できます)。

【対象】 視覚障害による身体障害者手帳の交付を受けている満15歳以上の方で、著しい精神障害・伝染性疾患を有しない方です。

【期間】 リハビリテーションに必要な期間です。個別的な課題の解決を希望する方には中期(数ヶ月)の訓練も提供しています。プログラムについては個別の課題により作成しますが、内容によっては希望に沿えない場合もあります。

※利用開始から終了までの期間は、利用者それぞれのリハビリテーションに必要な期間です。

【利用手続き】 居住地を管轄する福祉事務所を通して申請します。

【費用】 施設利用に伴う費用は、前年分の収入額により異なりますので、福祉事務所にお問い合わせください。

4. 利用のたまかな流れ

- 1) 利用の申請
- 2) 利用開始
- 3) オリエンテーション
- 4) 初期評価・医療検査
- 5) 個別目標に応じた生活訓練
 - ・個別訓練: 感覚、歩行、日常生活、コミュニケーション等
 - ・集団訓練: 体育、教養、学習、社会見学、レクリエーション等
 - ・生活支援: 個別相談、家族支援、進路相談、職業更生相談・職能訓練、健康管理等
 - ・医療: 医務課・神奈川リハ病院外来
- 6) 生活地域での訓練
- 7) 利用終了

5. ライトホームの特徴

視覚障害専門スタッフがきめ細やかな訓練を提供します。

家庭的な雰囲気と同じ障害を持つ方々との集団生活により、お互いに励まし合いながら訓練を受けることができます。

神奈川リハ病院の医療スタッフとの連携により、糖尿病などの慢性疾患をお持ちの方も安心して訓練を受けることができます。

※神奈川県総合リハビリテーションセンターには眼科もあります。

ロービジョンエイドの処方や日常的な眼科の管理は万全です。

6. 体験入所のお知らせ

七沢ライトホームでは、どんな訓練・相談を受けられるかを知るために毎年、2回(原則3月と9月)に体験入所を実施しています。

眼科では2泊3日の短期入院訓練を、七沢ライトホームと連携して行っています。

7. 連絡先

七沢ライトホーム

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516

電話046-249-2403

FAX046-249-2411

<ロービジョンのある病院>

このコーナーでは県内で私達の視力低下、視野狭窄の進行で不自由になる生活環境を少しでも改善しようと頑張っていたいただいているロービジョンケアを行っている病院を紹介しています。

■ 神奈川リハビリテーション病院眼科

「見えにくい、見えないことで困っている」という方々に、神奈川リハビリテーション病院眼科ではこんなことをしています。

- ・ 本当に必要なニーズをいっしょに考えます
- ・ 視機能をもう一度詳しく調べ直します
- ・ 使いやすいロービジョンエイドをみつけます
- ・ ロービジョンエイドの使い方を指導します
- ・ 拡大ソフト・音声ソフトの紹介と初歩訓練を行ないます
- ・ 補装具申請などに必要な書類を整えます
- ・ 家族の方に見えにくさを疑似体験していただきます
- ・ 白杖歩行の初歩訓練を行ないます

1. ロービジョン外来とは

「見えにくい、見えないことで困っている」という方がその対象です。状況を把握し、それを解決するために最も適した方法をあらゆる角度から探し出し紹介します。そして、日常生活の不便を少しでも解消できるようにする眼科外来がロービジョン外来です。

2. ロービジョン外来における診療内容

- ・ 細かな問診(杏林版 QOL 評価表を用いて日常生活全般でのニーズを確認する)
- ・ 視機能の再評価(視力・視野・色覚を時間をかけて多角的に評価する)
- ・ 読書速度の測定(MNREAD-J を使用して臨界文字サイズを測定する)
- ・ ロービジョンエイドの紹介(ルーペ、CCTV、遮光眼鏡、音声パソコンなど)
- ・ ロービジョンエイドの訓練(プレクストーク、らくらくホンなどの使い方指導)
- ・ パソコン訓練(Windows 版拡大ソフト・音声ソフトの紹介と初歩訓練)
- ・ 歩行指導(七沢ライトホームの訓練スタッフによる誘導歩行・白杖歩行の指導)
- ・ 短期入院訓練(2泊3日の入院で上記の訓練などを凝縮体験する)
- ・ 家族対象のバーチャルロービジョン体験
- ・ 必要書類の申請(身体障害者手帳、特定疾患認定書類、補装具申請意見書など)
- ・ 一般眼科診療(眼科基礎疾患の経過観察と治療)

3. 施設の概要

神奈川リハビリテーション病院眼科は、1999年以来、ロービジョン外来を開設し、多くのロービジョン患者様に対して、ニーズに応じた総合的なロービジョンケアを提供し、家庭や社会での行動の広がりをお手伝いしています。水曜日の午後と木曜日の午前にロービジョン外来を、月曜日と金曜日の午前に一般眼科外来を行なっています。

4. 利用の大まかな流れ

1) 他院からの紹介状をお持ちの方 →

ロービジョン外来の予約 (TEL 046-249-2528)

2) 紹介状のない方 →

一般外来の予約 (TEL 046-249-2489)

一般外来では、一般眼科診療の枠内での診察と視機能評価を行い、ロービジョン外来を予約します

5. 神奈川リハビリテーション病院眼科の特徴

ロービジョン評価・指導を専門とする眼科医と視能訓練士によるきめ細やかな診療を提供します。七沢ライトホームの訓練スタッフとの連携により、歩行訓練、日常生活訓練など一般病院の眼科で受けることが難しいロービジョン訓練を受けることができます。

※神奈川県総合リハビリテーションセンターには七沢ライトホームもあります。視機能がさらに悪化した場合でも専門のスタッフによる指導がすぐに受けられます。

6. 短期入院訓練のお知らせ

神奈川リハビリテーション病院眼科では、遠方の方や長期休暇が困難な方のために、随時、2泊3日(月曜日入院、水曜日退院)での短期入院訓練を七沢ライトホームと連携して行なっています。

7. 連絡先

神奈川リハビリテーション病院眼科

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516

電話 046-249-2528 (ロービジョン外来の予約・お問い合わせ)

046-249-2489 (一般外来の予約)

FAX 046-249-2502

■世界網膜の日 in 静岡

9月23日(日)に静岡で「世界網膜の日」が開催されます。「世界網膜の日」とは、社会に対して網膜色素変性症への理解と啓発を目的に、国際網膜協会(RI)が加盟各国に呼びかけて世界中で同時に開催されるイベントです。今回は静岡支部が担当支部として開催されます。隣の県ですので日帰り旅行の感覚で参加して、このイベントを盛り上げてください。

記念講演はお馴染みの神奈川リハビリテーション病院の仲泊聡先生がロービジョンについてお話されます。又、JRPS研究助成を受賞された3人の先生方の受賞講演もあります。特に一番早いのではと期待される遺伝子導入による網膜保護治療など神奈川ではめったに聞けない講演もあります。

皆さん、9月23日は静岡に行きましょう。

日時:9月23日(日)10:00~16:30(受付開始9:30)

会場:静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

アクセス:JR東静岡駅・南口を出てすぐ。

9時15分頃から改札口付近にボランティアを配置しています。

* 新幹線ご利用の場合は、静岡駅で東海道線上り普通列車に乗り換えて、3分。一つ目の駅です。

主な講演

・午前の医療講演

仲泊聡先生(神奈川リハビリテーション病院眼科)

演題 「ロービジョンケアの理想と現実」

・午後……研究助成授賞式と受賞講演

富田浩史氏(東北大学先進医工研究機構生命機能科学分野)

「遺伝子導入による視機能再建に関する研究」

辻川元一氏(大阪大学医学部眼科学教室)

「網膜色素変性症における視細胞死のメカニズムの解明」

柳靖雄氏(東京大学医学部付属病院眼科)

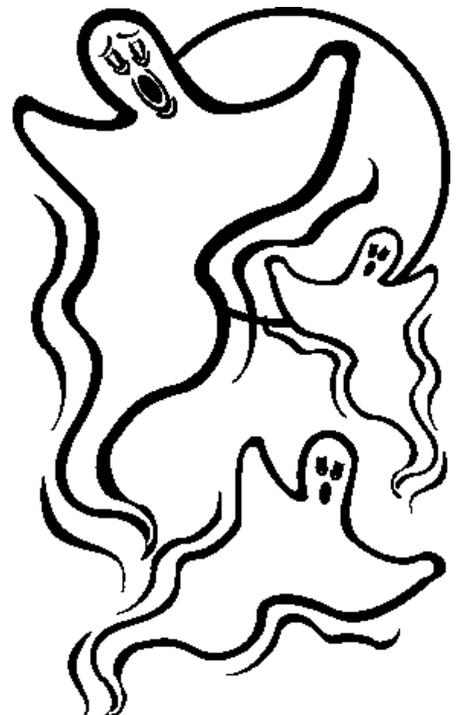
「骨髄間葉系幹細胞移植による網膜変性進行阻止効果」

その他 : 部会イベント・アトラクション・機器展示、各種体験、相談、チャリティ販売など盛り沢山の企画が一杯です。

* お1人での参加が不安な方は

下記まで連絡下さい。

内田 知 電話 ***-***-****



●平成18年度神奈川県地域別網膜色素変性症患者数

出所:神奈川県健康増進課

このデータは特定疾患認定患者数です。2年連続で減少したのは年額42,000円の療養費が廃止された影響によるものと思われます。

医療講演会
者が増加しているか
を物語っている。

別添使用

所管内で登録
しているか

別添使用

■東京支部主催 医療講演会のご案内

2007 医療講演会 in TOKYO、11月4日(日)開催

網膜色素変性症の原因遺伝子、発症メカニズムに関する知見は飛躍的に増え、治療を視野に入れた研究も進んでいます。医師、研究者と患者がともに夢を語れる時代になったともいえます。第一線で活躍されている先生方をお招きし、治療法研究の現状や将来について話していただきます。多数のご来場をお待ちしています。

●講演三題（座長 慶応義塾大学名誉教授 小口芳久先生）

1)「網膜色素変性における遺伝子解析の役割と疫学研究」

10時5分～10時50分

和田裕子眼科クリニック院長 順天堂大学医学部非常勤講師

和田裕子先生

2)「網膜色素変性に対する遺伝子治療－臨床応用を目指した取り組み－」

10時50分～11時35分

九州大学大学院 医学研究院 眼科学分野 池田康博先生

3)「網膜再生医療研究の進捗」

11時35分～12時20分

理化学研究所 発生再生科学総合研究センター

網膜再生医療研究チーム チームリーダー 高橋政代先生

●パネルディスカッション

「網膜色素変性症克服への道」

13時～14時30分

小口芳久、和田裕子、池田康博、高橋政代の各先生

日時：2007年11月4日(日) 10時～14時30分 開場9時30分

会場：四谷区民ホール 新宿区内藤町87番地

電話03-3351-2118

交通：地下鉄丸ノ内線 新宿御苑前下車徒歩5分

駅に案内スタッフがいます。気軽に声をかけてください。

*丸ノ内線とJR線の便利な接続駅は四谷駅と新宿駅です。

新宿御苑駅は新宿駅から東京方面に向かい2つ目の駅です。

四ツ谷駅からは新宿方面に向かい2つ目の駅です。

参加費：500円

主催：日本網膜色素変性症協会[JRPS]東京支部

〒156-0045 東京都世田谷区桜上水1-1-5-301

問い合わせ先：電話 ***-***-**** (井上)

*この行事の費用の一部はアステラス製薬(株)からの公募制活動資金助成によって賄われています。

*客席では飲食できません。昼食(軽食)をご持参の方は、ロビーに設置したテーブル、椅子でお願いします。

福祉機器の展示はありません。



地球一周「トパーズ号」の見学

横浜市・浜崎富代

大棧橋の客船ターミナル、木の床と広い広い空間。旅立ちや出会い、そして別れの繰り返されるはずの場所。柔らかな反響音に遠くから、つまれる場所です。しかもそのなだらかな屋根の上に土が盛られ、芝生になっていて、お弁当をひろげている人がいたり、犬が遊んでいたりすることなどを想像すると、楽しくなってしまいます。

入口の自動ドアからかなり奥まで進んだところにあつた受付で、あらかじめ取り寄せておいた乗船許可証と、身分証明書を提示して、手続きをすませました。視覚障害者2名、ガイドヘルパーさんも2名ご一緒でしたが、船内を案内してほしいとお願いしましたら、明るく親切な感じの青年が、快く引き受けて下さいました。

200名ほど入れるというホールで、来年1月から予定されている世界一周のクルーズについて、ビデオをつかって説明を聞きました。南極に上陸すること、イースター島のモアイ像を見ること、アフリカの希望峰をまわること等々、わくわくするようなお話でした。説明をして下さった方は、南極が大好きな大阪弁の男性でした。手つかずの自然と雄大さを一生懸命アピールしておられました。基本的には、旅行客を集めるための宣伝ですが、30分ぐらいで説明はおわりました。お話を聞いただけで、もう、船旅をしたような気分さえなつたほどでした。

そのあと、船内のいろいろな個所を案内していただきながら、まわりました。3か所にあるバー、喫茶店、売店、小さな映画館などなど。ラウンジで説明を受けながら、コーヒーもいただきました。デッキからの眺めと、晴れた空を吹きわたる風は最高でしたが、かなり古い船で、廊下や船室は狭く薄暗く入り組んでいました。9階まであり、屋上がプールになっていました。船からおりて、客船ターミナルに戻ったら、ふうーっと大

きく息をつけた感じでした。

「トパーズ号」はパナマ船籍の船で、岸についてはいても、中は外国と同じということで降船する際には、空港にあるような機械で、手荷物チェックを受けました。記念に船の全体を撮ろうと思い棧橋の窓から「トパーズ号」をカメラに納めようところみましたが、船の6階と7階の部分が横長に切り取られて見えるだけでとても全体は無理のようでした。そこで、「鯨の背」の愛称で呼ばれている芝生のある丘のような屋上に上りました。そこからの眺めは最高。横浜港のど真ん中にいるという感じでした。思いっきりのびのびと、深呼吸をしてきました。見学にかかった時間は2時間余りでした。

●「トパーズ号」のプロフィール

船籍：パナマ、総トン数：31, 500t

全長：195m、全巾：27m、喫水：9m

航海速度：最高21ノット、乗客数：最大1487名



2007/08/18(土) 多摩川花火大会 東京都よりの河川敷から撮影 (岩佐浩司さん提供)

内なるヴァイオリンの音色

横浜市・岸 利勝

7月28日(土)に横浜市青葉区の青葉台ウィリアホールで、プロヴァイオリン奏者として活躍している青木敦子氏のヴァイオリンコンサートが開催され、家内と一緒に出席しました。会報第43号に掲載されていた梅ノ木眼科医院の「コンサートのご案内」に申込み、招待を受けたものです。コンサートは梅の木眼科医院の音楽療法にも深い理解を持つ青木敦子氏が、梅ノ木眼科医院、梅ノ木エンタープライズ他との共催で実現したものでした。コンサートへの招待は25組と案内されていたので、会場には仲間の方も参加していたと思いますが、広い会場で薄暗いため分かりませんでした。

コンサートでは、ヴァイオリン奏者青木敦子氏(ピアノの中島慶子氏共演)の、「わたしの内なるヴァイオリン」から奏でられる、美しい音色の感動を1時間にわたり楽しませて頂きました。今までプロ演奏家のヴァイオリンコンサート等を聞く機会がなかった私達には、舞台中央前から5列目の席だったこともあってか、力強く迫力があり又優しく艶やかで、魅力溢れる音色がピアノの音色と相まって、両耳から体全体に心地よく吸い込まれるように響き渡り、生の音色に心からどっぷり漬かり酔いしました。演奏が終わるたびに会場が割れんばかりの大きな拍手が鳴り響き、又アンコールでは2曲の演奏を聞かせてくれました。

現在眼が不自由になってもまだ耳が健在なので、今回のような素晴らしい演奏を聴くことが出来、本当に良かったと思っています。演奏された曲は知らない曲ばかりでしたが、そんなことは関係なく体全体で楽しませて頂きました。

このような機会を設けて頂いた、梅の木眼科医院(加藤先生)有難う御座いました。又このような機会が設けられる日を楽しみに、これからもがんばっていこうと思っています。

ウッチャンの落書きストーリー

… ハト VS ウッチャン、勝ったのは！？ …

横須賀市・内田 知

ウッチャンの住んでいるのは横須賀。横浜・東京へと都会に出るためには、京急線かJR横須賀線のどちらかを利用する。その中の一つ、JRの場合は、横須賀線の終着駅久里浜が、都会に出るためのスタートとなる駅なのです。

通勤時間帯以外は、1時間に3本の発着がある。まあまあの本数なのだが、電車が到着した後、次の発車まで20分近くあるのです。

当然のことながら、発車までドアは開きっぱなしで停車している。穏やかでこちよい風が、車内を流れる日もあれば、北風ピューピュー、寒さに耐えながら発車を待つ季節もある。言わば、良きも悪きも、いなかの駅なのである。

そんな駅に、ウッチャン親子の姿があった。いなかの駅に、できたばかりのエレベーターでホームへ。電車に乗り込み、発車を待つ二人。「となりのホームに、電車がいないから、この電車が出るまで時間がありそうだね」の母親の言葉に、「そうなんだ」と返事をするウッチャン。すると、「ちょっと見てくる」と、座席から腰を上げるオフクロサン。これに、「いいから座ってな」と言ったウッチャンの言葉を聞かずに電車を降りて時刻表を見にホームへ。

そして、「電車が出るまで15分もある」と言いながら戻ってきた母親に、「そう」と愛想なく答えるウッチャン。それもそのはず、ウッチャンの頭の中はこれから行く歯医者の治療が気になって、オフクロサンの相手をする気になれなかったのです。

車内にハトが侵入…

ウッチャンのとなりに腰をおろすオフクロサン。何が気になるのかじっと座っていない。キョロキョロと首を動かして外を見ている。

視覚障害者と言えども、となりに座っている人間が、じっとしているか

してないかぐらいはわかるもんです。こうなると、なんでじっとしてないか気になるウッチャン。「どうしたの」と尋ねると、「ハトがイッパイいる」と答えるオフクロサン。これに、「野性化したハトが増えてたいへんだって聞いたことがある」と話すと、オフクロサンが、「そうなの、それにしてもスゴイ数だよ」と返事をした。

これに、「スゴイのはわかったから、じっと座ってなよ。子供じゃないんだから」と話すウッチャンだった。

すると、「悪かったねえ」と、ぶっきらぼうに返事をしたオフクロサン。これで、おとなしくしているだろうと思ったウッチャンだったが、今度は「シッシツ」と、何かをおいたてるような声を上げたと思ったら座席から身を乗り出すようにして、電車の床を足でトントンとたたきだしたのである。

おとなしくしてない母親に、うんざりしながら「何やってんだよ」と声をかけると、「電車の中にハトが入ってきた」と答えるオフクロサン。「ほっとけばいいじゃん」と言うと、「ドアが閉まったらたいへんでしょ」の返事。「たいへんなのはハトで、おれたちじゃないんだから」と言い返すウッチャンに、「でもね」と言いながら、懲りずに「シッシツ」と声を出しながら足をトントンさせている母親にあきれるしかなかった。

ハトに敵意むき出しのウッチャン

だがこの後、ウッチャンは母親に負けない行動と言葉を発することになる。それは、「お兄ちゃん、最近のハトはすごいよ。驚いて動くどころか、こっちを見てる」の母親の言葉だった。

それを聞いて、(ハトに、にらまれて驚いてやんの)と思いながら笑うウッチャン。そして、「ハトは、どのへんにいるの」と母親に聞くと「お兄ちゃんの右斜め前」と答えた。「どのくらい離れてる」と聞き返すと「1メートルちょっと」の返事に、持っていた白杖をその方向へのぼしてトントンとたたいたのである。

「これでいなくなつたろう」と聞くと「ううん、ピクリともしないよ。それよ

り今度は、お兄ちゃんの方を見てる」と母親に言われたのである。

その言葉に、(ハトの分際で、オレ様にガン飛ばすとはいい度胸じゃんか)と、たかがハトに敵意むき出しになって白杖を今度は強くトントンとたたき始めた。それを見て、今度はオフクロサンが、あきれるように「お兄ちゃん、もうやめなさい。誰かが杖にひっかかって転んだらどうするの」と言ったのです。

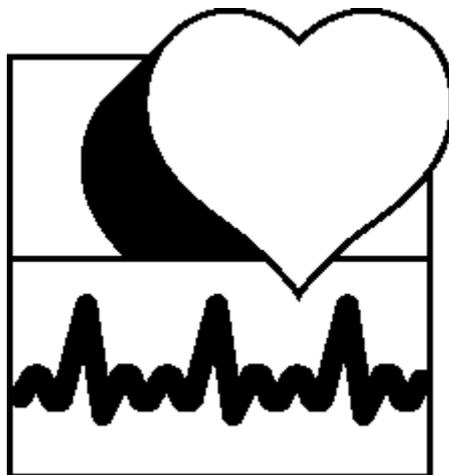
杖をひっこめる事には、「わかった」と従ったウッチャンだったが気持ちは納まらない。と言うより、なんでそんな気持ちになれるのか不思議である。この不思議な性格のウッチャンは、ハトに向かって「テメェ、キップ持ってんのか。ただ乗りなんかしやがったらつかまえてヤキトリにして食っちゃうからな」と言ったのです。それも、チト大きな声でである。

これには、「何をバカなことを言ってんの。それも大きな声で」とウッチャンをたしなめながらも、「アレ、今の一言でハトが外へ行ったよ」と驚いたように、言葉を続けたオフクロサンだった。

その言葉に、「当然だろう。ヤキトリにはなりたくないだろうからな」と、勝ち誇ったように答えるウッチャンだった。だが、この時のハトが言葉をしゃべれたら、ウッチャンにこう言うだろう。

「歯医者で、痛い目にあって泣くがいい」と。

この勝負、勝ったのは果たしてどっちか。



ロービジョンルーム

視覚に障害のある方や、見えにくくてお困りの方に
おすすめしたい商品を多数取り揃えております。
一般的にあまり見る機会のない商品を多数展示・販売をしております。
是非、相談にご来店をお待ちしております。



遮光眼鏡

お試し無料貸出し・ご相談実施中！

高倍率ルーペ

常時200種類ご用意 見比べて下さい。

強カライト

万が一の夜間歩行や暗がりに必需品！

音声時計

時刻を音声でお知らせする音声時計や、
直接針に触れる事ができる触読時計など。

拡大読書器

実際にデモ機をご用意！見え方をそれぞれ比べてください。

プレクストークポータブルレコーダー

プレクストークで音楽CDの再生やデジータンク、
JRPS会報誌を聴く！カセットテープに変わる機械です。

スピーチオ 活字読上げ装置

スピーチオを使ってSPコードの音声再生や、
ものしりトークを使って音声でICタグにメモ録！

体重計・電磁調理器

音声で誘導、体重をお知らせ。高火力と高い安全性で好評の視覚障害者用IH調理器。

単眼鏡、弱視眼鏡、日常生活便利グッズなど多数ご用意



光学堂 ロービジョンルーム

〒220-0051 横浜市西区中央2丁目6-5

ご来店の際はお電話でご予約ください。

ご予約
電話

045-290-0048

営業時間：AM10:00～PM7:30 水曜定休日 担当：中山 まで

詳しくは <http://www.kougakudo.jp/>

アイネットワークの拡大読書器アイビジョン

画面が見えにくいので、音声読み上げも使いたいという方がおられます。拡大読書器として使えるだけでなく、音声で読み上げもできる下記のモデルをお試しください

「アイビジョン デジタル5A-VOICE-ONS」¥263,000-

この金額に含まれるものは、ノートパソコン、簡単操作アクリル板、カメラ及びローラー付きスタンド、スキャナー、PCに内蔵のソフトです。音声エンジン、OCRエンジン、表示ソフト、読み上げソフトを内蔵しており、カメラで撮している文章を、画面に拡大表示するだけでなく、音声で読み上げできます。また、新聞など身近にある文書を、スキャナーに置き、簡単操作アクリル板の穴に指を差し込んでポンと押すという簡単操作で、画面に拡大表示するだけでなく、音声で読み上げできます。見えてないという方も、手で触り、耳で聞いて使えることから、給付を受けてご使用いただいています。場所を移動して使いたい方はノートパソコンタイプの下記のモデルをお試しください

「アイビジョン デジタル5N-NOTE」 ¥198,000-

この金額に含まれるものは、ノートパソコン、簡単操作アクリル板、カメラ及びローラー付きスタンド、PCに内蔵のソフトです。カラー/白黒/白黒反転、白黒レベル上げ/下げは、簡単操作アクリル板の穴に指を差し込んでポンと押すという簡単操作です。

(上記2モデルのOSはWindowsXP Homeです Vista 希望の場合予めご連絡下さい)

2011年までに、地上デジタル放送を受信できるテレビにする事が必要ですが、テレビ画面に拡大表示するタイプをご使用の方は、下記のモデルをお試しください。地上デジタル放送を受信できる32インチ液晶テレビ付きのモデルです。

「アイビジョン アナログ6C-LCD」¥198,000-(カラー画面で使用できる方)

「アイビジョン アナログ6CBR-LCD」¥225,000-(白黒反転で使用される方)

上記のモデル以外に、13インチから32インチ迄の中から大きさを選べるモデルがあり、価格も上記より下がるものがあります。見え方・使い方でお選びいただけます。

「東京及び近県の場合、ご自宅へ複数のモデルを持参し、お試しいただくサービスをしております。展示会場へ出かけられないという方も、最新のモデルをお試しいただけます。ライフワークで取り組んでいますので、費用は一切無料です」

ご要望をお聞きして、新モデルを開発しています。どのモデルも、官報に掲載されており、拡大読書器として給付を受けられるモデルです。(全部で十数モデルあり)

お問合せは下記へお願い致します。拡大読書器の担当は宮武(みやたけ)です

拡大読書器で読める世界を拓く 〒191-0055 東京都日野市西平山 5-23-12

アイネットワーク有限会社 電話&FAX 042-583-7450

e-mail aivision@js7.so-net.ne.jp (ホームページはありませんが、メールをいただければ、奇数月毎に開催の展示会に合わせ、最新情報をメール致します)

©アイビジョンはアイネットワーク有限会社の登録商標です

編集後記

◆皆さんこんにちは。暑い日が続き、体調など崩されていませんか？
私は、先日、急性虫垂炎(盲腸)になってしまい、今回の編集作業を、
他の方に代わっていただきました。

ここでお名前を出すことは出来ませんが、本当にありがとうございました。

まだ暑い日が続くと思いますが、
皆さんも体調には気をつけてください。(宮村)



JRPS 神奈川支部事務局 支部長連絡先

支部長 佐々木 裕二 TEL/FAX : ***-***-****
〒256-0812 小田原市国府津2364
E-mail / ****@*****

発行人 身体障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21

編集 JRPS神奈川支部会報編集部 宮村 聡
〒239-0811 神奈川県横須賀市
E-mail / ****@*****
FAX : ***-***-****(佐々木)

<http://www.rp-k.com>

定価 200円